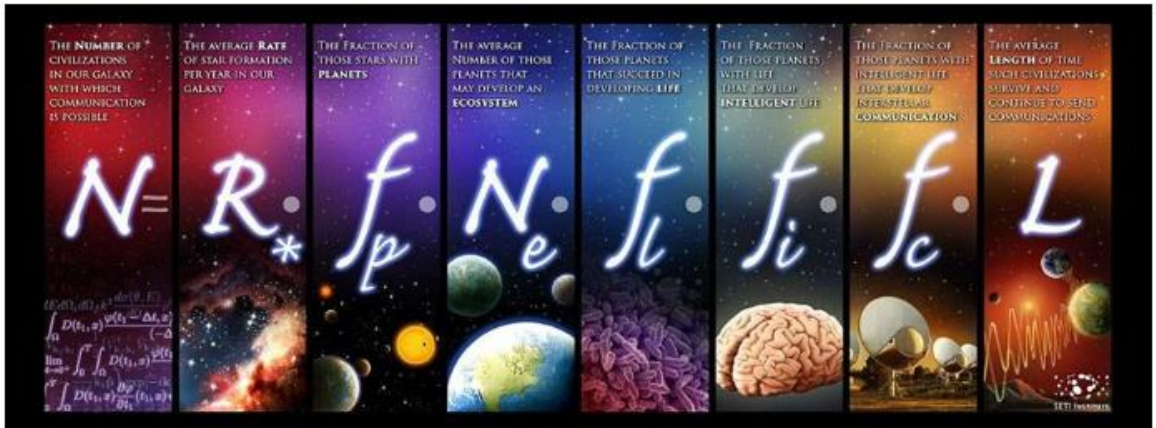


ドレイクの方程式とは、1961年アメリカの天文学者フランク・ドレイク氏が考案した天の川銀河における星間通信ができる高度文明の数を推定する式です。

まずは式の紹介と言葉の説明から。



出典(reference) : <http://www.seti.org>

ドレイクの方程式 :  $N = R * f_p * n_e * f_l * f_i * f_c * L$

- N : 銀河系内にここ1年間に存在すると推定される星間通信技術を持つ高度な文明の数
- R\* : 銀河系内において1年間に誕生する恒星の数
- fp : 恒星が惑星を持つ確率
- ne : 惑星を持つ恒星系において生命存在の可能性のある惑星の数
- fl : 生命存在の可能性のある惑星から実際に生命が発生する確率
- fi : 発生した生命が知的生命に発達する確率
- fc : その知的生命による文明が探知可能な信号を発信するまでに通信手段を発達させる確率
- L : そのような高度な文明が存続する年数

N,nはNumber(数)、Rはrate(率)、fはfraction(確率)、LはLength(長さ)。

この仮定ではドレイクの方程式に従うと3つの高度文明が存在することになりました。すなわちこの銀河系には僕たち地球以外に残り2つの知的生命の生きる惑星があります。